

平成30年度
高山市まちづくりアンケート調査（団体）
—報告書—

平成30年12月
高山市

目次

第1章 調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査の期間	1
3	調査の項目	1
4	調査の方法	1
5	回収結果	1
6	標本の構成	2
7	その他	3

第2章 調査結果の分析

1 団体の活動について

1	活動に関し困っていること	4
2	活動を充実する上での支援策	5
3	他の組織との連携	6
4	協働でまちづくりをすすめていくうえで重要な施策	9

2 今後、高山市が取り組むべき重要課題について

1	今後の重要課題	10
---	---------	----

3 高山駅西側のまちづくりについて

1	駅西地区の利用状況	12
2	駅西地区で利用する施設	13
3	駅西地区の将来的なイメージ	14
4	駅西地区に期待する機能（施設）	15

4 将来に向けた高山市のまちづくりへのご意見など（自由記述）

1	未来の高山市に望む姿	16
2	団体でできると思われる取り組み	23
3	その他自由記述	29

第1章 調査の概要

1 調査の目的

高山市第八次総合計画の見直しにあたり、各種団体における意識の把握・分析を行い、今後の政策立案の参考とする。

2 調査の期間

平成30年5月30日～6月25日

(※前回調査 平成25年5月24日～6月14日)

3 調査の項目

○団体の活動について

- ・活動に関し困っていること
- ・活動を充実する上での支援策
- ・他の組織との連携
- ・協働でまちづくりをすすめていくうえで重要な施策

○今後、高山市が取り組むべき重要課題について

- ・今後の重要課題

○高山駅西側のまちづくりについて（※今回のみ実施）

- ・駅西地区の利用状況
- ・駅西地区で利用する施設
- ・駅西地区の将来的なイメージ
- ・駅西地区に期待する機能（施設）

○将来に向けた高山市のまちづくりへのご意見など（自由記述）

- ・未来の高山市に望む姿
- ・団体でできると思われる取り組み
- ・その他自由記述

4 調査の方法

調査地域 高山市内全地域

調査対象 市内に事務所等を有する団体 312団体

(まちづくり協議会、地区町内会、市民活動登録団体、福祉関係団体 など)

実施方法 郵送による配布・回収 記名式

5 回収結果

発送数 312団体

回収数 186団体

回収率 59.6%

6 標本の構成

		回答数 (件)	構成比 (%)
主な活動地域 (複数回答)	高山市全域	67	26.4
	高山地域内	46	18.1
	丹生川地域内	8	3.1
	清見地域内	6	2.4
	荘川地域内	12	4.7
	一之宮地域内	8	3.1
	久々野地域内	8	3.1
	朝日地域内	4	1.6
	高根地域内	5	2.0
	国府地域内	10	3.9
	上宝・奥飛騨温泉郷地域内	12	4.7
	高山市及び周辺	41	16.1
	岐阜県内	16	6.3
	その他(※1)	10	3.9
	無回答	1	0.4
主な活動内容 (複数回答)	町内会活動	33	5.6
	保健、医療又は福祉の増進を図る活動	47	8.0
	社会教育の推進を図る活動	46	7.8
	まちづくりの推進を図る活動	78	13.3
	環境の保全を図る活動	64	10.9
	災害救援活動	32	5.5
	地域安全活動	35	6.0
	人権の擁護又は平和の推進を図る活動	14	2.4
	国際協力の活動	13	2.2
	男女共同参画社会の形成の促進を図る活動	8	1.4
	子どもの健全育成を図る活動	79	13.5
	情報化社会の発展を図る活動	11	1.9
	学術・文化・スポーツの振興を図る活動	43	7.3
	科学技術の振興を図る活動	1	0.2
	経済活動の活性化を図る活動	34	5.8
	職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動	15	2.6
	消費者の保護を図る活動	6	1.0
	市民活動団体を支援する活動	25	4.3
	その他(※2)	2	0.3
	無回答	1	0.2

		回答数 (件)	構成比 (%)
活動年数	1 年未満	5	2.7
	1 年以上～3 年未満	7	3.8
	3 年以上～5 年未満	29	15.6
	5 年以上～10 年未満	18	9.7
	10 年以上	123	66.1
	不明	2	1.1
	無回答	2	1.1
会員数	10 人未満	26	14.0
	10 人以上～30 人未満	58	31.2
	30 人以上～50 人未満	31	16.7
	50 人以上～100 人未満	18	9.7
	100 人以上	49	26.3
	不明	1	0.5
	無回答	3	1.6

「その他」の内容

※1 「全国」、「県外」 など

※2 「都市農村交流」 など

7 その他

この報告書における「回答率」は、次の計算式により算出している。

$$\boxed{\text{回答率} = \text{回答数} / \text{標本数}}$$

回答率は百分率(%)で、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が必ずしも100%とならない。また、2つ以上の回答を求めたものについての合計値は100%を超える。

第2章 調査結果の分析

1 団体の活動について

1 活動に関し困っていること

- ・「会員が減少・不足している」の割合が最も高く、約半数の団体が選択している。
- ・前回の調査結果に比べ「会員が減少・不足している」、「市民等に十分活動が認知されていない」、「リーダー・役員が不足している」の順位・割合が上昇している。
- ・前回の調査結果に比べ「活動資金が不足している」、「活動拠点・施設が不足している」の順位・割合が低下している。

問1 貴団体の活動に関し、現在どのようなことに困っていますか。（2つまで○印）

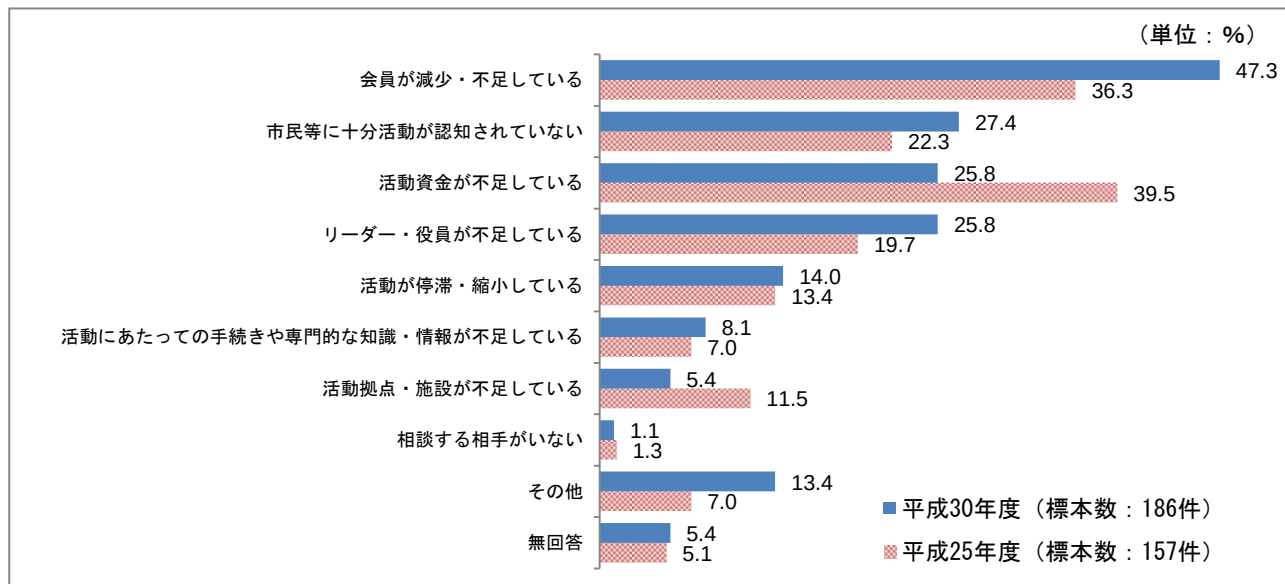
順位		回答数 (件)	回答率 (%)	前回 (H25)	
				順位	回答率 (%)
1	会員が減少・不足している	88	47.3	2	36.3
2	市民等に十分活動が認知されていない	51	27.4	3	22.3
3	活動資金が不足している	48	25.8	1	39.5
3	リーダー・役員が不足している	48	25.8	4	19.7
5	活動が停滞・縮小している	26	14.0	5	13.4
6	活動にあたっての手続きや専門的な知識・情報が不足している	15	8.1	7	7.0
7	活動拠点・施設が不足している	10	5.4	6	11.5
8	相談する相手がいない	2	1.1	8	1.3
	その他	25	13.4		7.0
	無回答	10	5.4		5.1
計		323			

(標本数：186件)

(標本数：157件)

※「その他」の内容

- ・「会員が高齢化してきている」、「行政の協力・連携が不足している」 など



2 活動を充実する上での支援策

- ・上位から「地域に貢献する活動を行う上での経済的支援」、「市民などへの、貴団体の活動内容の広報・PRに関する支援」、「行政や地域への提案など活動の成果が活かされる仕組みづくり」、「活動に役立つ情報提供や学習・研修などの支援」の順となっており、前回（H25）の調査結果と同じである。そのうち「地域に貢献する活動を行う上での経済的支援」の割合が大きく低下している。
- ・前回（H25）の調査結果に比べ「リーダーなどの人材育成や人材バンクなどの人的支援の実施」の順位・割合が上昇している。「活動や会議などに利用できる場所の提供」の順位・割合が低下している。

問2 貴団体の活動を充実する上で、行政にどのような支援を望みますか。（2つまで○印）

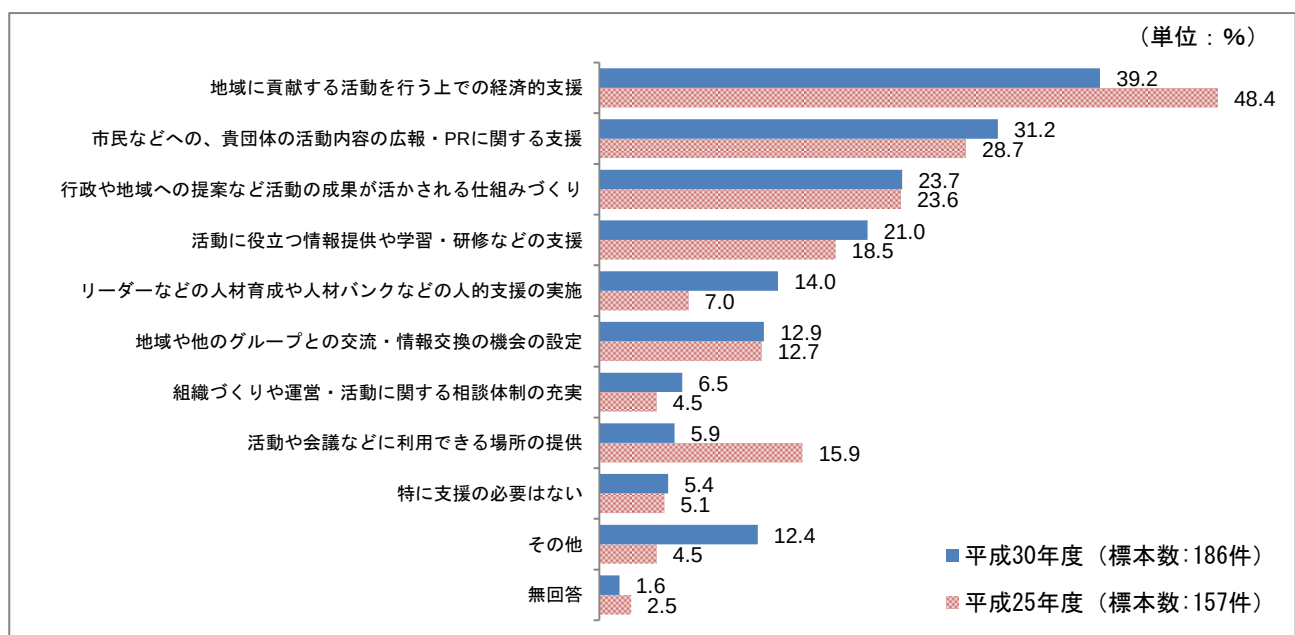
順位		回答数 (件)	回答率 (%)	前回（H25）	
				順位	回答率(%)
1	地域に貢献する活動を行う上での経済的支援	73	39.2	1	48.4
2	市民などへの、貴団体の活動内容の広報・PRに関する支援	58	31.2	2	28.7
3	行政や地域への提案など活動の成果が活かされる仕組みづくり	44	23.7	3	23.6
4	活動に役立つ情報提供や学習・研修などの支援	39	21.0	4	18.5
5	リーダーなどの人材育成や人材バンクなどの人的支援の実施	26	14.0	7	7.0
6	地域や他のグループとの交流・情報交換の機会の設定	24	12.9	6	12.7
7	組織づくりや運営・活動に関する相談体制の充実	12	6.5	9	4.5
8	活動や会議などに利用できる場所の提供	11	5.9	5	15.9
9	特に支援の必要はない	10	5.4	8	5.1
	その他	23	12.4		4.5
	無回答	3	1.6		2.5
計		323			

（標本数：186件）

（標本数：157件）

※「その他」の内容

- ・「行政の協力・連携」、「行政への要望事項の早期実施」 など



3 他の組織との連携

【A】現在の連携の状況

- ・ 前回（H25）の調査結果と同様で、「よくある」と「たまにある」を合わせた割合は、「行政との連携」が最も高く（77.9%）、「企業との連携」が最も低い（31.2%）。そのうち「企業との連携」の「よくある」の割合が大きく減少している。

【B】今後の連携の必要性

- ・ 前回（H25）の調査結果と同様で、「必要」の割合は、「行政との連携」が最も高く、「企業との連携」が最も低い。

問3 貴団体は、次の各項目の組織等と連携して活動することが、【A】現在どれくらいありますか。
また、【B】今後連携が必要だとお考えですか。（あてはまる番号にそれぞれ1つに○印）

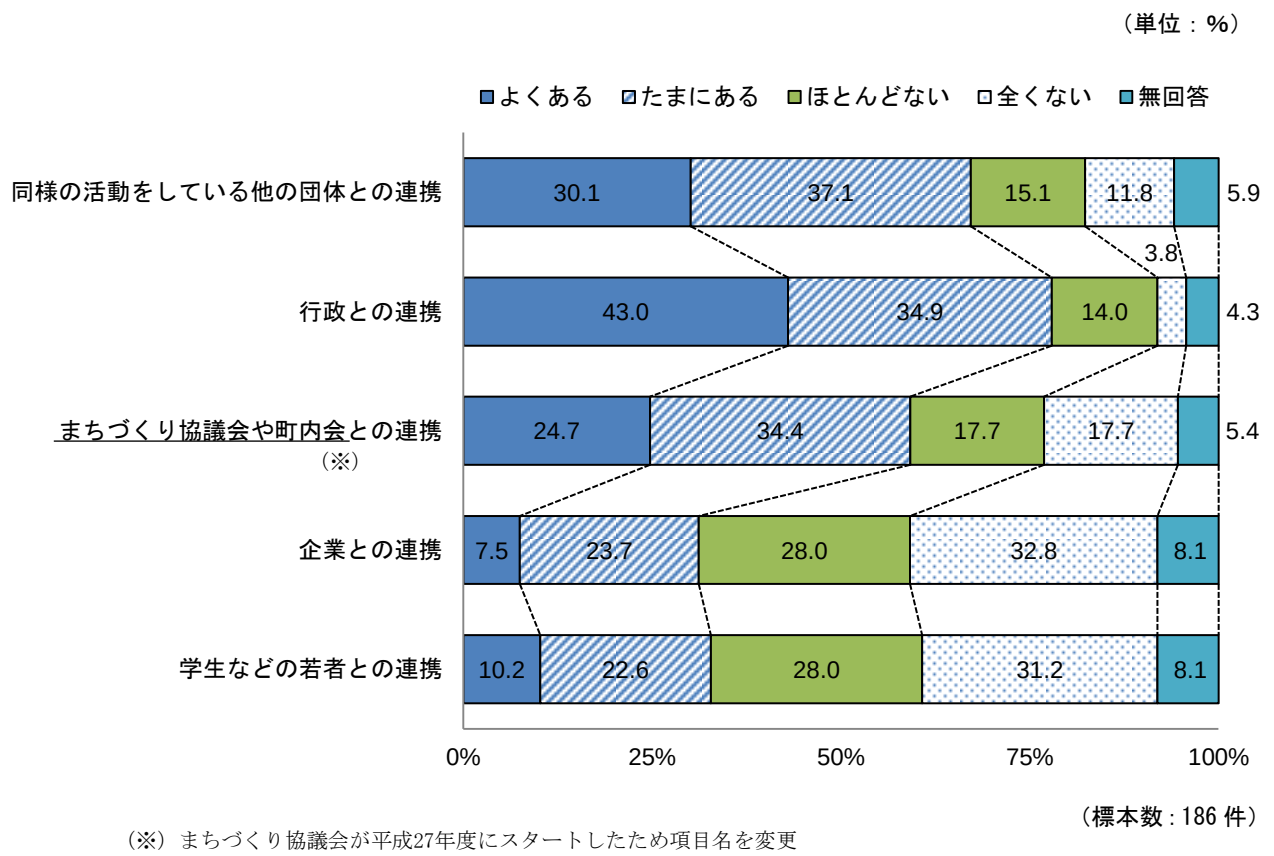
	【A】 現在の連携 の状況	回答数 (件)	回答率 (%)	前回 (H25)	【B】 今後の連携 の必要性	回答数 (件)	回答率 (%)	前回 (H25)
				回答率 (%)				回答率 (%)
同様の活動を している他の 団体との連携	よくある	56	30.1	28.7	必要	131	70.4	72.0
	たまにある	69	37.1	41.4	必要でない	4	2.2	4.5
	ほとんどない	28	15.1	18.5	どちらともいえない	34	18.3	16.6
	全くない	22	11.8	8.3	わからない	4	2.2	4.5
	無回答	11	5.9	3.2	無回答	13	7.0	2.5
行政との連携	よくある	80	43.0	43.9	必要	161	86.6	87.9
	たまにある	65	34.9	37.6	必要でない	1	0.5	0.6
	ほとんどない	26	14.0	13.4	どちらともいえない	9	4.8	7.0
	全くない	7	3.8	1.9	わからない	4	2.2	1.9
	無回答	8	4.3	3.2	無回答	11	5.9	2.5
まちづくり協 議会や町内会 との連携	よくある	46	24.7	22.9	必要	138	74.2	65.6
	たまにある	64	34.4	33.1	必要でない	5	2.7	3.8
	ほとんどない	33	17.7	22.9	どちらともいえない	24	12.9	22.3
	全くない	33	17.7	14.0	わからない	8	4.3	3.8
	無回答	10	5.4	7.0	無回答	11	5.9	4.5
企業との連携	よくある	14	7.5	15.3	必要	89	47.8	51.0
	たまにある	44	23.7	12.7	必要でない	11	5.9	7.0
	ほとんどない	52	28.0	29.3	どちらともいえない	59	31.7	30.6
	全くない	61	32.8	35.0	わからない	8	4.3	5.1
	未回答	15	8.1	7.6	無回答	19	10.2	6.4
学生などの若 者との連携	よくある	19	10.2	7.6	必要	115	61.8	57.3
	たまにある	42	22.6	22.3	必要でない	4	2.2	5.1
	ほとんどない	52	28.0	28.7	どちらともいえない	39	21.0	27.4
	全くない	58	31.2	34.4	わからない	12	6.5	4.5
	無回答	15	8.1	7.0	無回答	16	8.6	5.7

(平成30年度 標本数：186件)

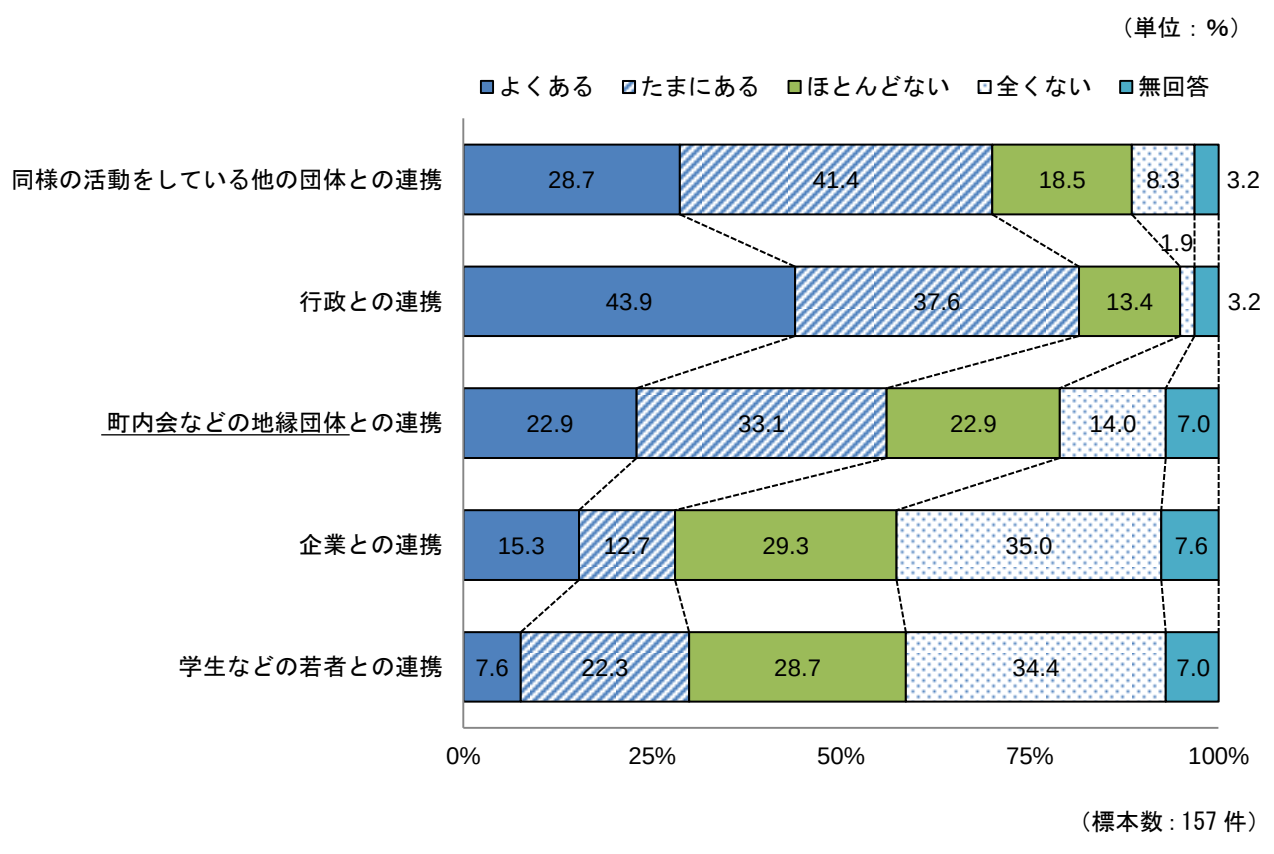
(平成25年度 標本数：157件)

【A】現在の連携の状況

(平成30年度)

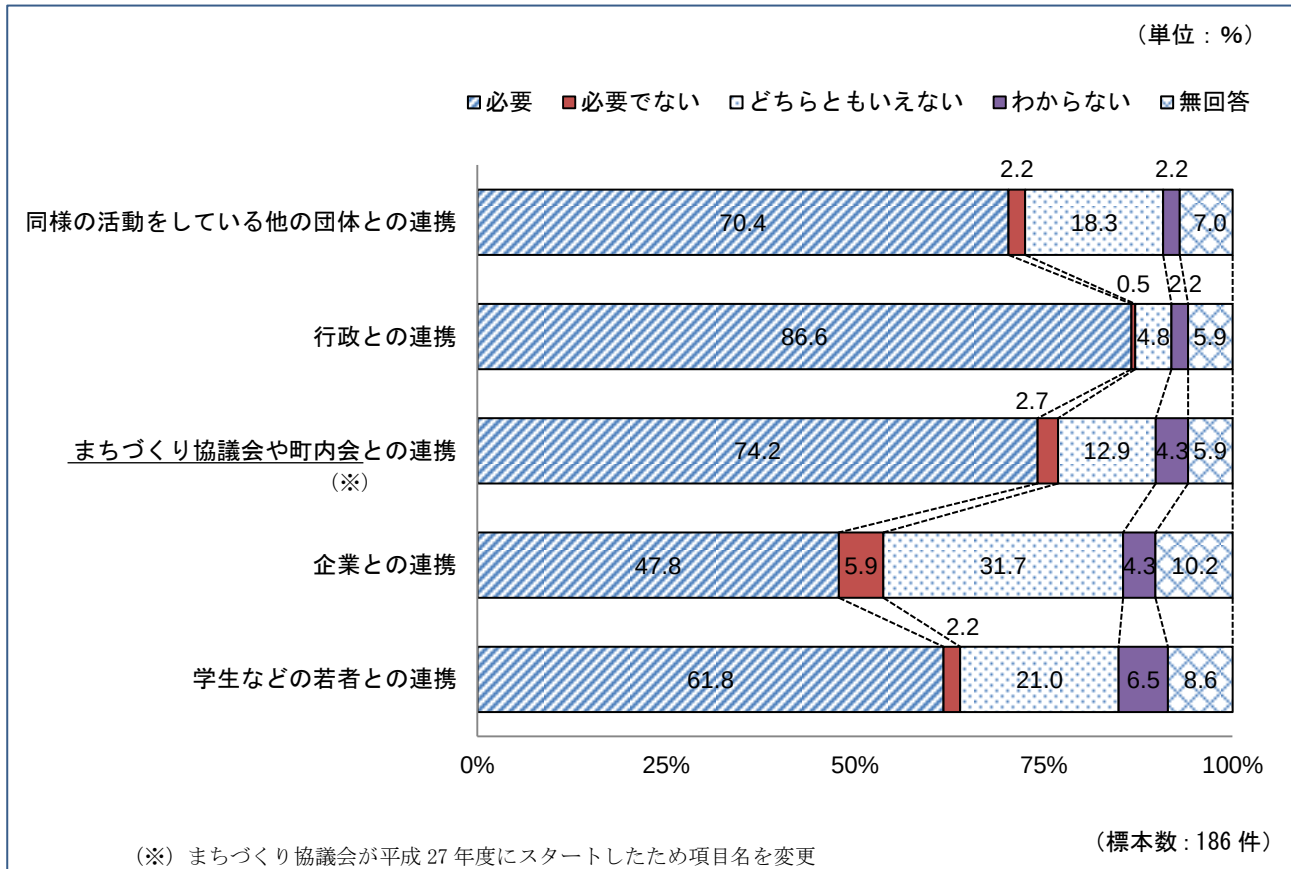


(平成25年度)

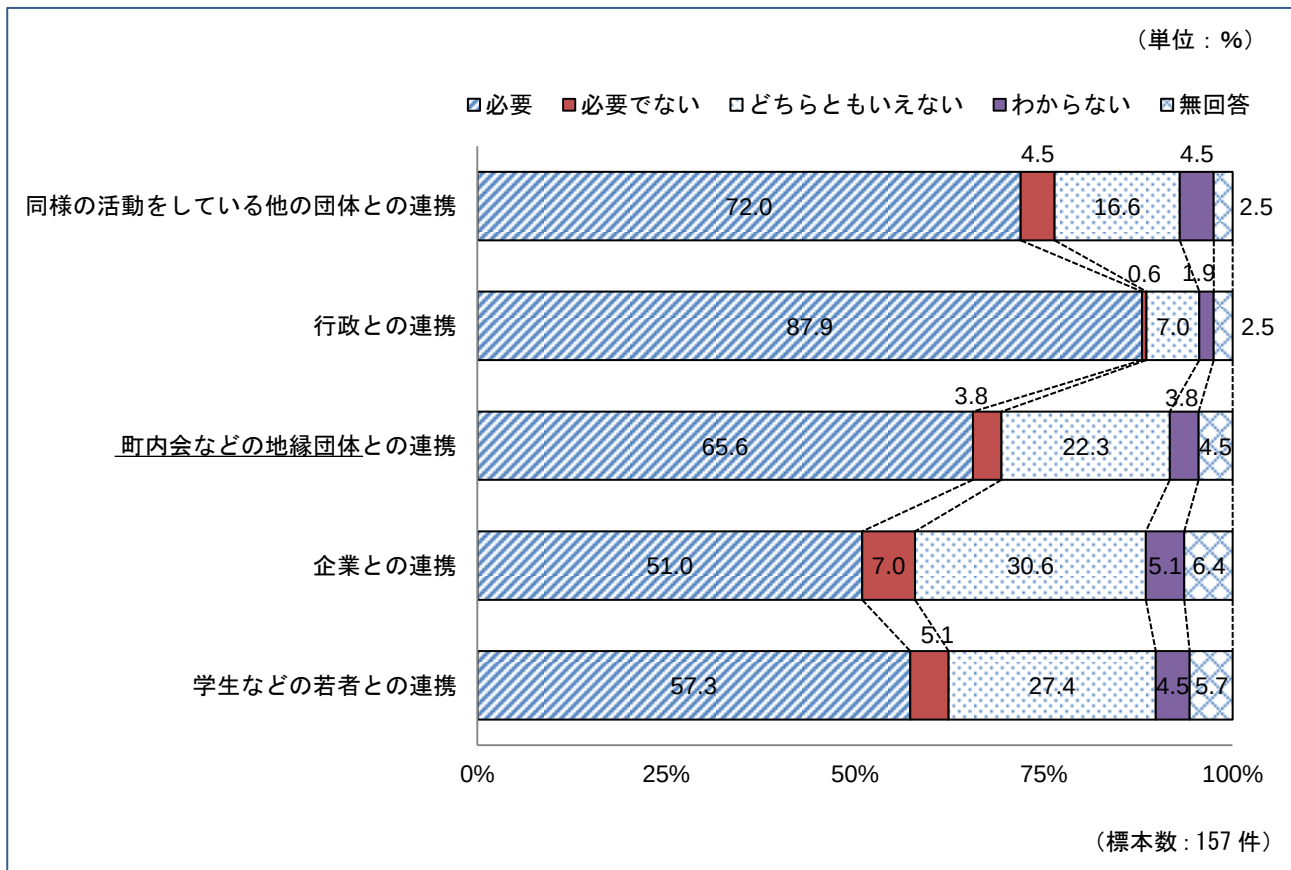


【B】今後の連携の必要性

(平成30年度)



(平成25年度)



4 協働でまちづくりをすすめていくうえで重要な施策

- ・「地域のまちづくりのニーズを把握し、情報を共有する中で施策や事業を展開する」の割合が、前回（H25）の調査結果と同様で最も高い。
- ・前回（H25）の調査結果に比べ「行政だけ、市民だけでは解決できない課題を解決する」の順位・割合、「地域や市民の多様な価値観を活かせるような場を醸成する」の割合が上昇している。「まちづくりへの市民参画を推進する」、「市民が自立して解決できるよう行政の支援を充実する」の順位・割合が低下している。

問4 市民と行政が協働してまちづくりをすすめる上で、何が最も重要とお考えですか。

（2つまで○印）

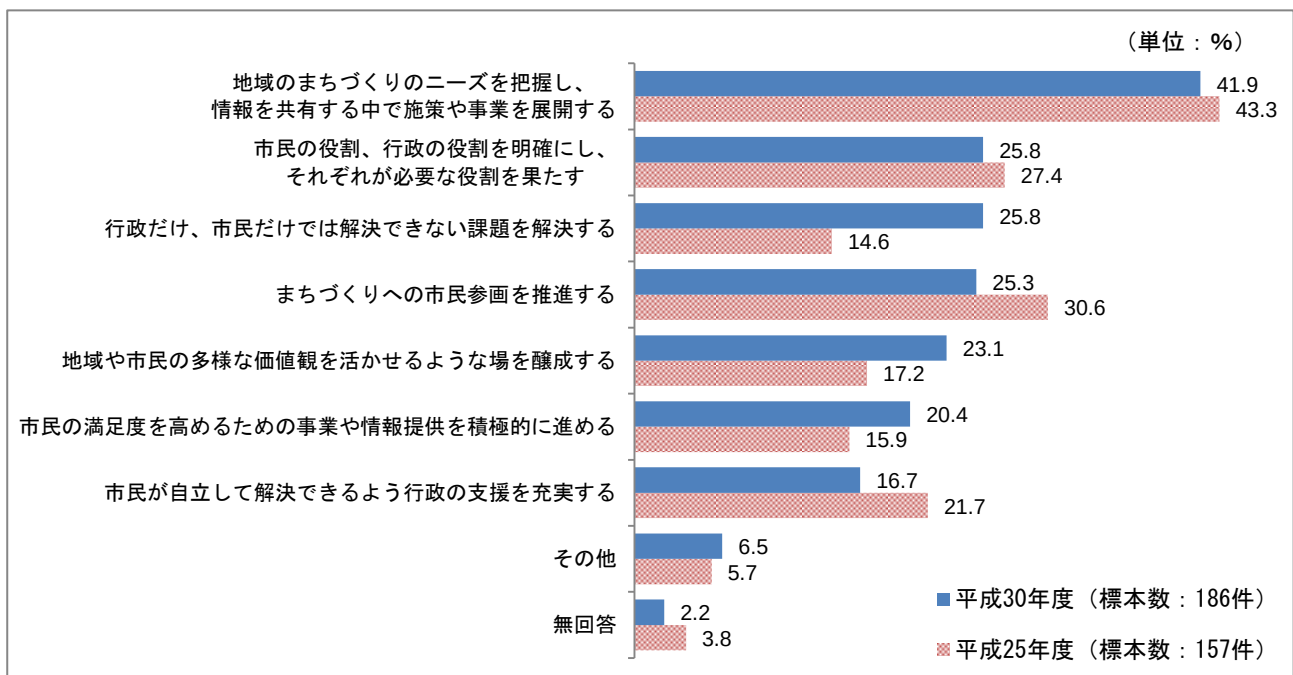
順位		回答数 (件)	回答率 (%)	前回（H25）	
				順位	回答率(%)
1	地域のまちづくりのニーズを把握し、情報を共有する中で施策や事業を展開する	78	41.9	1	43.3
2	市民の役割、行政の役割を明確にし、それぞれが必要な役割を果たす	48	25.8	3	27.4
2	行政だけ、市民だけでは解決できない課題を解決する	48	25.8	7	14.6
4	まちづくりへの市民参画を推進する	47	25.3	2	30.6
5	地域や市民の多様な価値観を活かせるような場を醸成する	43	23.1	5	17.2
6	市民の満足度を高めるための事業や情報提供を積極的に進める	38	20.4	6	15.9
7	市民が自立して解決できるよう行政の支援を充実する	31	16.7	4	21.7
	その他	12	6.5		5.7
	無回答	4	2.2		3.8
計		349			

（標本数：186 件）

（標本数：157 件）

※「その他」の内容

- ・「行政が協働事業に積極的に取り組む」、「市の組織間の情報共有」、「市民が参加できる事業の掘り起こし」 など



2 今後、高山市が取り組むべき重要課題について

1 今後の重要課題

- ・上位から「人口減少への対応」、「少子化対策」、「急激な高齢者の増加への対応」となっており、順位・割合が、前回（H25）の調査結果に比べ上昇している。
- ・次いで、「地域力の向上や魅力ある地域づくり」、「地域経済の活性化」、「雇用の場の創出」となっているが、順位・割合は、前回（H25）の調査結果に比べ低下している。
- ・前回（H25）の調査結果に比べ「伝統文化の保存・活用」、「観光の振興」の順位・割合が大きく低下している。

問5 今後、高山市がどのようなことに重点的に取り組むべきだとお考えですか。（3つまで○印）

順位		回答数 (件)	回答率 (%)	前回（H25）	
				順位	回答率(%)
1	人口減少への対応	66	35.5	4	24.2
2	少子化対策（妊娠、出産への支援、子育てしやすい環境づくり）	61	32.8	6	20.4
3	急激な高齢者の増加への対応	57	30.6	5	23.6
4	地域力の向上や魅力ある地域づくり	43	23.1	1	31.8
5	地域経済の活性化	42	22.6	2	26.1
6	雇用の場の創出	40	21.5	2	26.1
7	医療・福祉サービスの確保	27	14.5	9	13.4
8	学校教育や生涯学習の充実	24	12.9	11	10.8
9	安全安心の確保（消防、防犯、交通安全）	23	12.4	10	11.5
10	自然環境の保全	22	11.8	13	7.6
11	地震や豪雨災害などへの備え	19	10.2	17	5.7
12	伝統文化の保存・活用	16	8.6	8	17.2
13	観光の振興（魅力ある観光地づくり、誘客促進）	15	8.1	7	17.8
13	農林畜産業の振興	15	8.1	14	7.0
15	郷土への「誇り」・「愛着」の醸成	12	6.5	12	10.2
15	効率的で持続可能な行財政運営の推進	12	6.5	20	3.8
17	再生可能エネルギーへの転換	11	5.9	15	6.4
18	文化芸術の振興	9	4.8	17	5.7
19	道路環境の整備や公共交通の充実	8	4.3	15	6.4
20	海外戦略（外国人観光客の誘致、地元産品の販路拡大、国際交流）	7	3.8	19	5.1
	その他	18	9.7		4.5
	無回答	3	1.6		1.3
計		550			

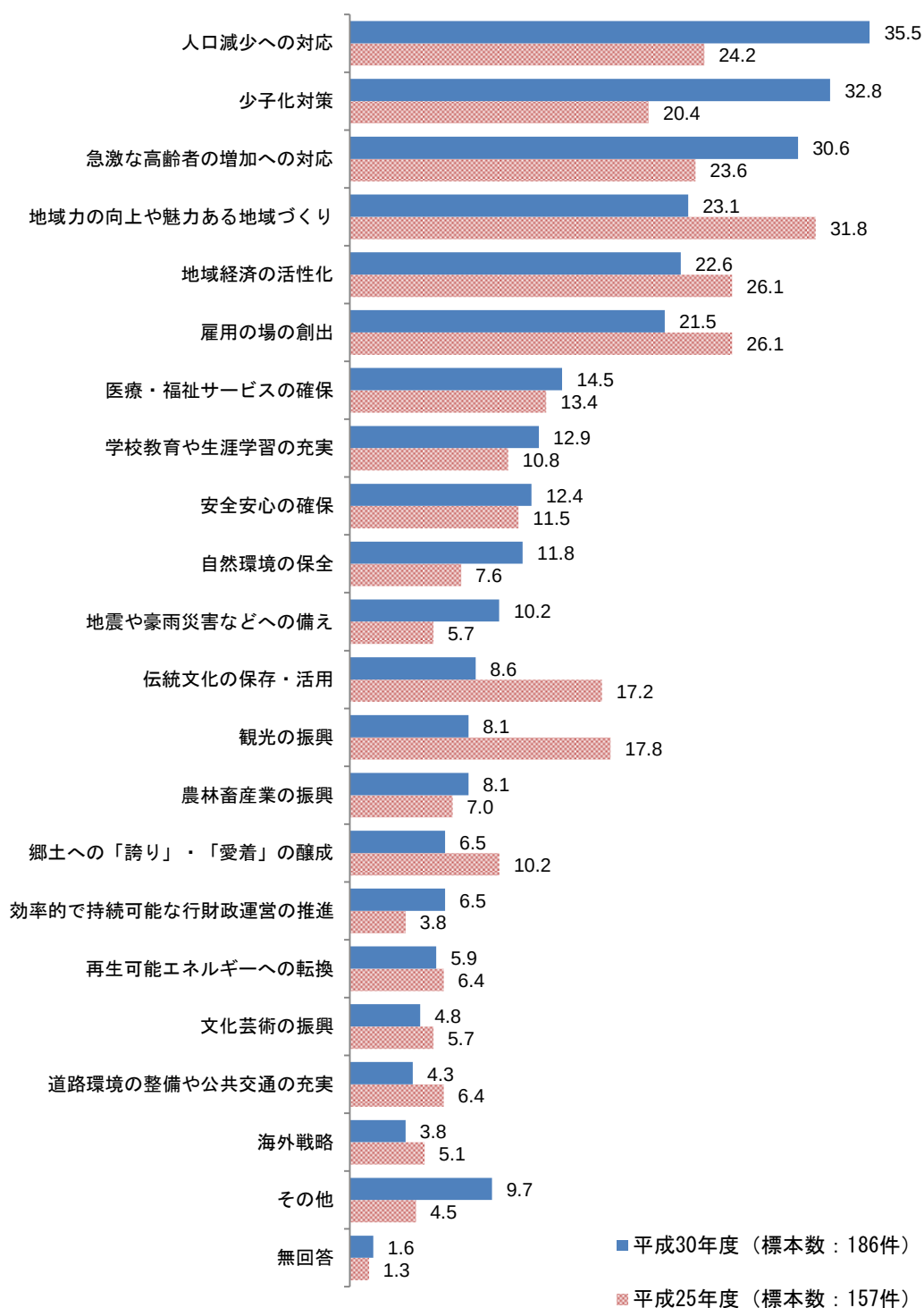
（標本数：186 件）

（標本数：157 件）

※「その他」の内容

- ・「若者が住み続けたいと思えるまちづくり」、「景観保全」 など

(単位：%)



3 高山駅西側のまちづくりについて

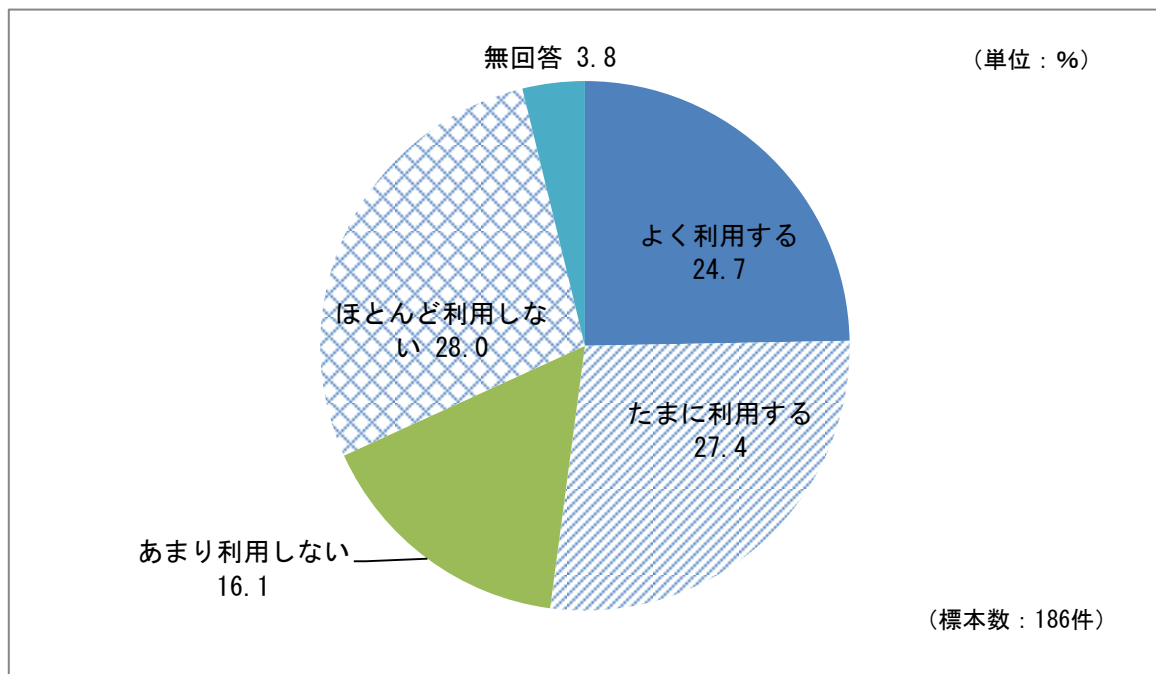
1 駅西地区の利用状況

- ・「ほとんど利用しない」の割合が最も高い。
- ・次いで、「たまに利用する」の割合が高い。

問6 貴団体は、駅西地区を利用しますか。(1つに○印)

	回答数 (件)	回答率 (%)
よく利用する	46	24.7
たまに利用する	51	27.4
あまり利用しない	30	16.1
ほとんど利用しない	52	28.0
無回答	7	3.8
計	186	

(標本数 : 186 件)



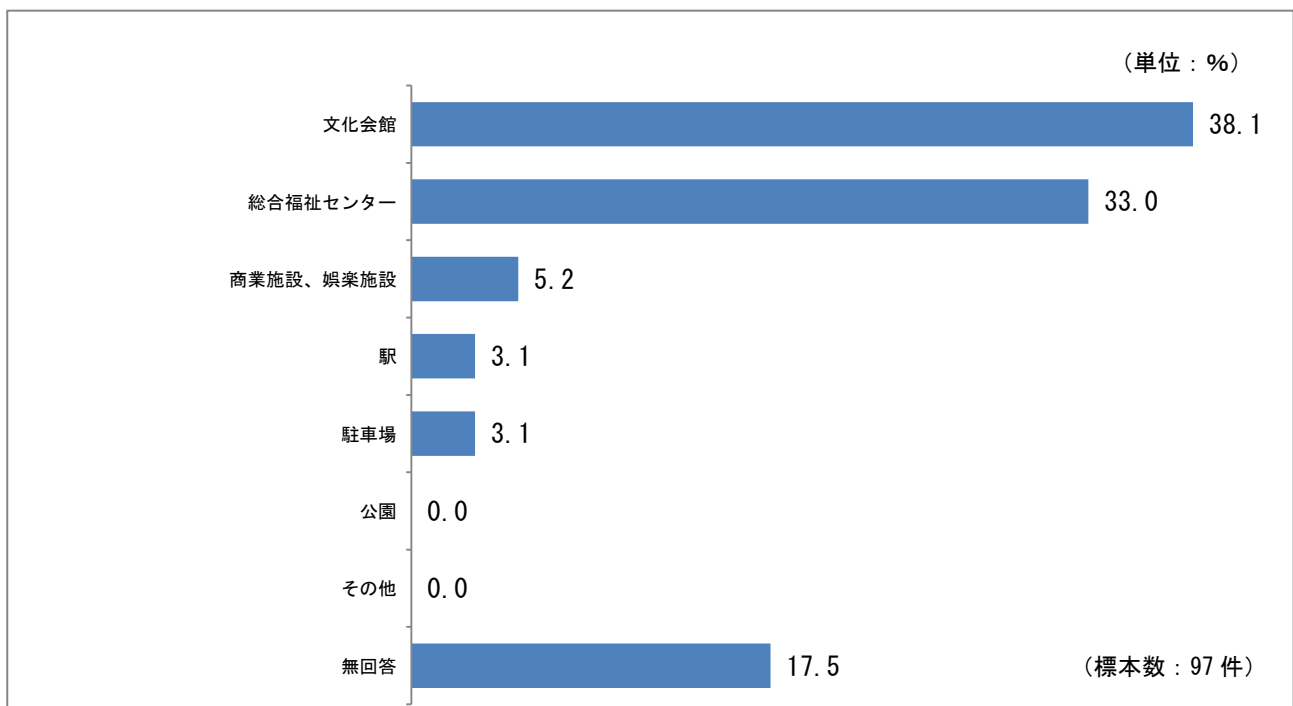
2 駅西地区で利用する施設

- ・「文化会館」の割合が最も高い。
- ・次いで、「総合福祉センター」の割合が高い。

問6ー2 問6で、「よく利用する」または「たまに利用する」に○をつけた団体に伺います。
駅西地区では、主にどの施設を利用しますか。（1つに○印）

	回答数 (件)	回答率 (%)
文化会館	37	38.1
総合福祉センター	32	33.0
商業施設、娯楽施設	5	5.2
駅	3	3.1
駐車場	3	3.1
公園	0	0.0
その他	0	0.0
無回答	17	17.5
計	97	

(標本数 : 97 件)



3 駅西地区の将来的なイメージ

- ・「子育てや介護などのサービスが充実している地区」の割合が最も高い。
- ・次いで、「訪れる人々が憩い、やすらぐことができる地区」の割合が高い。

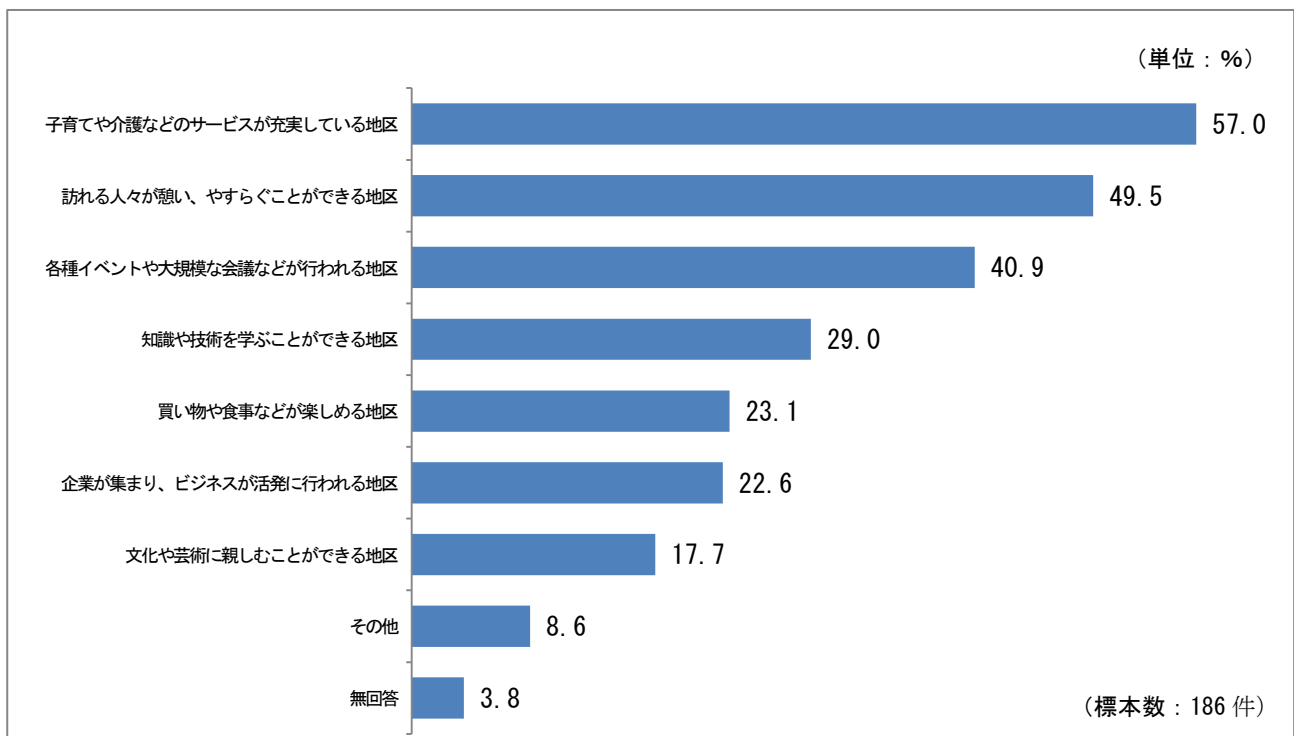
問7 駅西地区は、将来的にどのようなイメージの地区になったら良いと思われますか。
(3つまで○印)

	回答数 (件)	回答率 (%)
子育てや介護などのサービスが充実している地区	106	57.0
訪れる人々が憩い、やすらぐことができる地区	92	49.5
各種イベントや大規模な会議などが行われる地区	76	40.9
知識や技術を学ぶことができる地区	54	29.0
買い物や食事などが楽しめる地区	43	23.1
企業が集まり、ビジネスが活発に行われる地区	42	22.6
文化や芸術に親しむことができる地区	33	17.7
その他	16	8.6
無回答	7	3.8
計	469	

(標本数：186 件)

※「その他」の内容

- ・「駐車場」、「公園」、「交通の利便性が高い」 など



4 駅西地区に期待する機能（施設）

- ・期待度の高い機能は、高い順に「公園や広場」、「駐車場や駐輪場」、「市民活動機能」となっている。
- ・反対に、期待度の低い機能は、低い順に「居住機能」、「宿泊機能」、「業務機能」となっている。

問8 駅西地区にどのような機能（施設）を期待しますか。下記のすべての項目について、それぞれあてはまるものを選んでください。（項目ごとに1つ〇印）

	期待する	やや期待する	あまり期待しない	期待しない	無回答	期待度 (%)	順位
公園や広場	67	83	15	8	13	86.7	1
駐車場や駐輪場	72	65	22	8	19	82.0	2
市民活動機能(市民サークル、NPO の活動の場など)	67	69	25	8	17	80.5	3
コンベンション機能(会議場、展示場など)	63	71	22	14	16	78.8	4
子育て支援機能(保育所、児童センターなど)	59	73	31	6	17	78.1	5
娯楽機能(映画館、劇場など)	58	66	31	17	14	72.1	6
文化・芸術機能(美術館、博物館など)	63	57	36	13	17	71.0	7
教育・学習機能(専門学校、図書館など)	44	58	55	12	17	60.4	8
医療・福祉機能(診療所、介護サービス施設など)	45	55	57	12	17	59.2	9
商業機能(商品販売店、飲食店など)	41	53	52	20	20	56.6	10
スポーツ機能(トレーニングジムなど)	27	50	68	24	17	45.6	11
業務機能(オフィス、作業所など)	14	47	72	36	17	36.1	12
宿泊機能(ホテルなど)	7	22	60	81	16	17.1	13
居住機能(マンションなど)	4	20	62	85	15	14.0	14

(標本数：186 件)

(期待度の算出方法)

期待度 = $\frac{\text{「期待する」、「やや期待する」の合計}}{\text{「期待する」、「やや期待する」、「あまり期待しない」、「期待しない」の合計}}$	
--	--

4 将来に向けた高山市のまちづくりへのご意見など

1 未来の高山市に望む姿

問9 未来の高山市がこうあって欲しいと思う姿がありましたら、ご記入ください。

観光
・将来も今のように多くの観光客が訪れ、にぎわうまちであってほしい。観光産業で多くの雇用が創出され、全国の中でも元気のあるまちであってほしい。
・多くの人が訪れる観光都市であるとともに、若い人の働く場があり、子どもたちの声が響く、活気あるまちであってほしい。
・観光都市として、観光客を大切におもてなしできる。
・市内特定の場所(上三之町等)の集客だけでなく、市の郊外に及ぶ観光ルートの構築。
・古い町並中心の観光にならず、市内全体の高山の良さをPRしてほしい。
・国内外から訪れる人が「心のふるさと」を感じることができる。
・やっぱり観光です。
・観光に頼らない高山市であってほしい。
・伝統・文化のある町並みと、北アルプスなどを含めた自然の両方とも適度に観光客が訪れる落ち着いた雰囲気のある高山市であってほしい。
・全国的にみても、観光客増加のために活発に各種イベントが実施されている都市だと思います。各種イベントを初心に戻って点検し、さらに強くするもの、廃止してもいいものの選択を。
・現在、観光による収入に頼っている状態だが、観光客が今後も多く訪れるとは限らない。地域の中で、需要供給、収入支出が完結するような仕組みが望ましい。
・観光だけでなく、高山市にあるその他の魅力にも目を向けてほしい。
・国際化が進み、多くの外国人が来高している中、他の観光地のように安くて粗悪なものやサービスを展開せず、本物志向で、高山に来たら日本の本物に出会えるまちになってほしい(デンバーからの来訪者をお手伝いして感じました)。
・観光都市として風化することなく、良い方向での持続可能なまちを望みます。
・高山市は海外でも知名度が上がり、素晴らしいまちづくりが進んでいると思います。
・質の高さと深みのある観光地でありたい。

商業
・大型スーパーの進出で人が偏るので、商店街の活性化を図ってほしい。
・ふるさとの原風景を残しつつ、商業ベースが優先しすぎないまちであってほしい。

労働
・飛騨地域の中核都市として、住みやすくにぎわいのあるまちになってほしいと願っています。地域の活性化には、若者の定住を増やすことが必須と考えます。若者の定住を増やすため、雇用の場の確保とミスマッチの解消、官民が連携した取り組みが必要だと思います。
・今後ITを利用した働き方で、田舎で暮らしながら経済活動ができ、都会では味わえない自然とのつながりのある生活ができる、若い人たちが定着するようなまち。
・若者が多く、活気のあるまち。若者が定着できる企業が多くある。

・若者が住めるまち(雇用)。
・大学卒業後に就職できる企業を誘致して、人口が増え、魅力ある高山市であってほしい。
・Uターン学生を受け入れる態勢(雇用等)。
・高校を卒業して一時的に高山を離れても、戻ってきたくするような魅力あるまちであってほしいです。働きがいのある場所が必要だと思います。
・若者が戻って働けるまち(企業の誘致)。
・子どもたちが他の都市に流出せずに戻って来たいと思うまち。魅力的な仕事、生活環境を創り出せるまち。
・観光政策重視で外部からの人集めに躍起になっている間に、地域住民は仕事をなくして転出し、人口が減少しています。地元産業の活性化によって、人口減少に歯止めをかける政策に転換して下さい。

農業
・農業で生計が立てられるまちに。
・農林業や地場産業に力を入れる。

林業
・高山市は、広範囲にわたって豊かな自然に恵まれている。したがって、森林資源の利用による木工業をはじめとする工業団地の開発及び誘致を推進する。伝統・文化を継承し、若者の定住・移住を図ることで、若者が安心して住み続けられることを確立すべきである。

地球環境
・自然と共生するまちづくりは、口にするのはたやすいが、具体策が見られない。外国人からは市街地内に緑が少ないという印象が強いとの声を聞く。市街地にある公園の生物多様性に配慮した緑化、森林化、雑草と言われる自生種の草本による花壇づくりなど、人文関係の基盤・土台となる自然生態系の整備を望む。
・自然環境の保全と再生可能エネルギーによる住みやすい環境。
・環境問題に熱心に取り組む姿。
・子どもから高齢者まで、豊かでゆったり過ごすことができるまち。自然を生かし、暮らしの中に取り入れることができる生活や場、若者が定住できるよう(大学のサテライトでもよい)創意工夫してほしい。
・豊かな自然を守り続ける高山市であってほしいと思います。

生活環境
・現在は観光にとっても力を入れているイメージですが、ゴミ焼却場・火葬場問題など生活に直面していることを解決していただきたいです。
・人にも動物にもやさしい町であってほしい。動物にやさしい町に犯罪はないと思います。世界中の方が高山にみえますが、高山市がそのような町だとアピールできたら、自分の住んでいる町を誇りに思え、若者たちも高山市を活性化してくれるのではないのでしょうか。
・アニマルポリス・動物救急病院を設置し、動物の不適切飼育・販売をやめるなど動物の尊厳を守り、共生を実現する。

・ペットと入居できる老人ホーム、ペットシェルターの設置、ペット信託制度があれば、高齢者・単身者が孤立せず、犬や猫などとともに安心して心豊かな暮らしを送ることができる。生き物との温かな暮らしができ、子どもたちの想像力や思いやりを育む機会を、大人が身を持って実践できる地域(地域猫活動を含む)。

景観

・景観保全を大切にし、のんびり、ゆっくりできる地域づくり。
・静かな古都(現在、雑然としすぎている)。
・町並みの風景を大切にしてほしい。
・「心のふるさと飛騨高山」。このキャッチフレーズが、将来も生きている飛騨高山であってほしい。他にも、「豊かな自然と美しい景観のある飛騨高山」、「木の香があふれ、手技のぬくもりが生きる飛騨高山」、「伝統を大切にし、人情豊かな飛騨高山」等。

学校教育

・これからの子どもたちが生き生きと生活できるように、これから子どもを産む若い親たちの教育を。学校も押しつけではなく、心を育てる教育ができる明るい高山市になってほしい。建前や見た目ではなく、思いやりのある社会教育をしてほしい。
・高校卒業後も地元に残れるよう大学等の設置を望む。

文化芸術

・文化都市・学園都市。

歴史文化

・市民一人ひとりが、地域の伝統や文化を尊重し、老若男女はもちろん、来訪者に対しても温かい心で接し、明るく活力のある思いやりに満ちたまちであってほしいと思います。
・伝統を大切にする姿。
・観光都市として、歴史文化が維持され、個性あるまちであってほしい。
・伝統の文化を持続することで、まちづくりに寄与する。
・文化財・祭り文化を活かした、若者が参加できる高山市。
・目先の観光客の増加に力を入れるよりも、訪れた観光客が魅力を感じることができる本物の文化・伝統を活性化させる。
・近い将来、城山に高山城を再建できたらいい。
・現在の伝統・自然・文化・歴史を残す。

地域福祉

・市民の日常生活に密着した施設・サービスが行き渡るまち。高山市の独自性を生かした(町中の古民家の利用等)弱者に優しいまち。
・子ども、高齢者、病気の人、障がい者や家族など、誰もが安心して生活できる高山市であってほしいと思います。

児童福祉
・子育てしながらフルタイムで仕事を継続できる支援の充実。
・子どもが元気で健全に育つ環境整備。
・母親がゆとりを持って子育てできる町になってほしいです。
・子どもたちが安心して学び、遊べる。若者が明るい未来へ希望と安心感を持って働き、生活を楽しんでいる。
・今以上に子育てしやすい高山。
・街角に子どもたちの元気な声があふれるまち。
・高山市で育つ子ども達が大人になって「高山で子育てしたい！」と思えるような環境で、子育て世代が次々に高山へ移住してくるまち。子どもたちの笑顔があふれるまち。市が進めている自然エネルギーの推進、木育の推進、郷土教育、どれも子どもたちを取り巻く環境づくりにはとても大切です。「子育て環境はこうでなければ」というような高山モデルを作ってほしい。
・多くの子どもが、明るく元気に生活する高山。
・多産ができ、安心して子育てできる高山。

高齢者福祉
・生きがいのある人生。年老いた方々とのふれあいは、穏やかな笑顔を取り戻し、安らぎのひと時があります。この高山に住んでよかったと思える全国の見本でありたいです。
・住みやすい、高齢者に優しいまちであってほしい。
・笑顔でいっぱいのお年寄りが集い、活動するまち。

障がい者福祉
・重い障がいがあっても、生涯を通じて出産・育児（保育）・就学・就職・結婚・引越し等、節目に障がいのある仲間やその家族が不安を抱くことなく、生まれ育った地域で人間らしく生きることのできる高山市であってほしい。
・障がいのある仲間が、特性に応じた支援を受けることができ、職場の人・地域の人達から生きづらさを抱えていることを理解され、安心して就労することができる高山市であってほしい。
・観光の町ではありますが、教育・福祉（目に見えにくい障がい、発達障がい等）にも力を入れてほしい。
・障がい者や体の弱い人の未来を助ける姿。
・障がい者が、親亡き後も継続して高山市で暮らせるような仕組みづくりをぜひ確立していただきたい。また、障がいを持たれた方々の就職率が上がるように努力いただきたい（就職先開拓等）。

保健
・健康寿命日本一の市。
・今後の高齢社会に向かって、元気で100歳人生を送る。先は、健康づくりに努力する社会。楽しく参加できる運動があり、いつも仕事があることに喜びを感じる社会。健康・仕事・対話・集いの場所の提供など、各団体とのさらなる連携を図る。
・人それぞれの悩み事・困り事の解決に向けて、伴走型支援がなされ、安心して暮らし続けられる市であってほしい。

医療

- ・医療や福祉現場での必要な資源を確保し、市民が持続的に医療や介護サービスを受けられるような市であってほしい。
- ・血液透析と介護の複合した施設の実現。

土地利用

- ・日本一広大な面積の有効利用。支所地域の幅広い利用。
- ・空き家を活用して農村部に滞在できるようにするため、医療施設・食料を販売する施設があれば、古い町並に頼らなくても高山の観光の幅が広がると思う。高知県の取り組みがテレビで放送されていた。参考にできることは活用してほしい。
- ・市域が広大なので、中心部のみでは支えきれない。中山間地域をどう活かしていくかにかかっている。人の導線をしっかり考えて、バランスよく、特徴を作っていくことが大切ではないか。
- ・現火葬場が移転した場合、跡地を利用して公園整備を実現させたい。管理はまちづくり協議会が行うことを考えている。
- ・高山市街地は高齢者が安心して生活でき、若年層は郊外で安心して子育てができる都市計画を作してほしい。

道路

- ・これほどまで地方の少子化・人口減少が進むと、高山市独自の活性化は無理。国による地方再生が必要。東海北陸自動車道を無料化して、都市交流事業、田舎暮らしの推進（人口増）、観光客増を図ってください。

公共交通

- ・高齢者の運転免許返納に伴う福祉バスの充実。
- ・広大な市の中で、それぞれの地域が元気で生き生きとした暮らしができる高山市であってほしい。市の中心部と周辺部の様々な条件の違いはあるが、交通手段の確保などで、少しでも状況を改善してほしい。
- ・交通の便が良く、お年寄りが安心して免許返納できる高山。

防災

- ・ペットの災害時対策。ペットを同行した避難訓練や普段からの準備啓発、動物避難所の設置（マップ作成）。
- ・大雪や災害時の危険場所の点検、整備により、どの地域においても安全安心に暮らせる高山市にしてほしい。

安全

- ・山岳遭難事故は、北アルプスがある限りなくならないと思います。市長は北アルプス遭難対策協議会の会長として、今後も現在の体制を続けることが望ましいと思う。

協働

- ・町内会への加入者を増やす。

・町内会活動が活発で、地域が明るくみんなが生き生きと暮らす町。
・各家庭の収入、暮らし、子どもの教育費に格差を感じず、のびのびと家族生活・地域交流を楽しめる、住みやすい高山市であってほしい。
・住民すべてが幸せに暮らすことができ、自助共助が自然にできるまちで、誰もが自然に支え合うことができる居心地のいいまち。

交流
・もっと人が交流し、外出しやすい地域になると良いと思います(物理的な側面でのひきこもりが多いように感じる)。
・平和都市として、平和を世界に発信。
・年配の市民が暮らし方の見本を見せてくれるような仕組みが大切です。
・交流人口が多く、人交密度の高いまちであってほしい。
・子どもたちとお年寄りなど、市民の交流が自然に行われる環境であってほしいと思います。
・支所地域にもぎわいのある、交流人口の多い高山。地域ごとの特色を誇れる高山。

行財政運営
・スピーディーな行政の進め方。
・高山市は、観光都市としてのイメージも強く、観光客をメインとした取り組みも重要視されている。しかし、観光業に無縁の市民も多いので、もっと市民生活の安定に力を注ぐための事業の実施に向けた意見交換会等を数多く開催してほしい。

その他
・高山を故郷として愛し、誇りを持てる人材育成を目指す。
・今はまだ幼い子どもたちが、大人になってもずっと住み続けたいと思う町になってほしい。雇用・経済の発展はもちろんですが、心から高山市をいとおしく思い、誇りを持てる町にしなければならぬと思います。
・支所地域、中心市街地等は、過疎化が進むと予想されます。人口が減っても(行政が生活面での支援ができなくても)、その土地に住み続ける誇りを持ち、堂々と生活してほしいと願います。
・企業間競争が少なく、のんびりと暮らせるまちであってほしい。
・地元に住む人が主役になれる、自信を持った人が増えることを望みます。現状は観光客が主役で、たまにあるイベントも地域の外から来た人が主役です。高山市に住み、高山市で活動し、なおかつ高山市を盛り上げる人が主役となれば、持続性あるまちづくりも可能だと思います。
・仕事があり、人口が増え、魅力ある地域になってほしい。若者が集い、安心して高山市で子どもを産みたい、子どもを育てたいと思える、若い世代が住みやすいまち(年配者はある程度我慢してでも)。
・魅力ある高山市。よそから来る人も住んでいる市民も魅力を感じ、来たい・住みたいまちになってほしい。
・魅力ある高山。夢の持てる高山。子どもから高齢者まで安心して暮らせ、住み続けたいと思える高山。子どもが大人になり、高山で住みたいと思う高山。
・子どもたちが誇りを持てるまち。ほかの都市と違い、独自性のあるまちづくりを希望する。
・よりよい社会となるため、高齢化、少子化の深刻な問題を解決する。

・戦争を体験してきた世代は、国難が起き、どん底まで生活が落ち込んでも、農林畜産業の第一次産業と、ものを生み出す第2次産業は、どんな場合でも確保しなければならないと感じる。観光産業等の第3次産業の発展も大切だが、それは第1次・第2次産業があって成り立つものであり、どんな不景気・災害にも耐えられる市であってほしいと思う。
・今とあまり変わらない高山でいいです。でも、10年後に高山市民の半数以上が高齢者となるとしたら、どうなるのでしょうか。少子化・高齢化とだけ言うのではなく、具体的な数字や財政状況を示し、市民に考えてもらうことも必要と思います。
・自然・景観・文化・人情など高山の良さが残っている。
・高山市が合併してから、約9,000人の人口が減ったと言われています。この先も支所エリアは、ますます減少していくと思われます。商売は消費してくれる人がいなくては、成り立ちません。生まれ育ったところで生活でき、地域を守り、安心して暮らせる、そして商売ができるまちになってほしいと思います。
・Uターン、Iターンを歓迎し、すべての年齢層がバランスよく構成されるまちづくり。
・将来的に人口が減ってくる(高齢者が増えて若者が減少)のを防ぐために、子どもたちは高山市に住みたいと思って住み、都会の人も住みたいと思える高山市であってほしい。
・高山市で育った子ども・若者が、自然に定着・定住するまち。
・持続可能な高山市。担い手が安定して地域資源を活用し、次世代に責任を持って引き継ぐ人づくりを積極的に維持。
・若者が安心して住み続けられる地域であってほしい。
・若者が元気で生きていける高山市であってほしいと思います。

2 団体でできると思われる取り組み

問10 未来の高山市のため、貴団体でできると思われる取り組みがありましたら、ご記入ください。

観光
・新しい観光資源として利用できる施設の提供。
・猫駅長という取り組みを行っている町があり、駅に猫がいるだけでたくさんの観光客が訪れ、その町は大変平和だと聞きます。その様な企画が実現できたらぜひ協力させていただきたい。

商業
・商店街でのイベントへの参加。商店街でのイベントをたくさん実施したらどうか。
・一人でも多くの商工会の会員が、廃業や倒産することなく、事業を継承できるように並走型支援で取り組みたいと思います。
・各種機会を利用して地域産業の活性化について提言すること。

労働
・商工会が取り組むことは、雇用の場の確保と求人・求職のミスマッチ解消のための事業継承、新規創業、第二創業、人材の確保と育成への支援だと考えています。働きやすい職場作りのための職場環境整備にも、応分の役割を果たしたいと考えています。
・地域住民・若者・子どもたちが、地域の良さを認識し、誇りを持って地元で居住し、働く。そんな地域であるように事業を進めたいと思っている。国府まち協の場合、「飛驒国府まちづくりネットワーク」の活動など。
・若者が元気で働けるような町づくり。高校生等に意欲を高めてレベルアップできるような職場の提供。高齢化して農地が荒れている所や、人が住んでいない所も今後増えると思われるので、そこへ若者がたくさん入ってきて住んでもらえると良い。

農業
・荒廃農地を少しでも減少させる。栽培・収穫・そば打ち等一連の体験を行い、自然の恵みに触れる。

林業
・山が荒れています。せっかく昭和30年代に植えた林が間伐されないまま放地され、山が泣いています。このまま放っておくと、山の土砂崩壊につながります。今後間伐を含め、どのように山を守っていくかが森づくり委員会の大事な仕事と思っています。

地球環境
・高山駅周辺の整備で、東の乗鞍口、西の白山口を特色付けるため、ブナ・イヌブナ・ミズナラ・トチノキ・カエデ類等の苗木作り、育苗、植樹作業など、森づくりの推進に取り組むことができます。
・地域資源である原山公園、松倉シンボル広場及び松倉城跡の有効管理(指定管理の活用)。6次産業化の実施(地域資源の活用)。
・視野を広く持ち、自分たちの暮らし方やリサイクル活動が、アジアや世界全体の平和や安全につながっている意識を皆が持ち、育て、次世代へ渡していきたい。

・ジオパークというプロジェクトは、地域のジオ(大地の遺産)を1つのツールとして活用し、まちと教育や地域の活性化に資する目的で行うものです。行政の人的支援や財政的な支援のもと、地域振興に寄与できると考えています。
・産業廃棄物処理、リサイクル、環境等の社会変化により、変更・追加される各種法令の確実な実行と周知徹底活動。
・岐阜県は、全国第1位の包蔵水力を持っています。特に、高山を含む飛騨地域の可能性は大きい。その再生エネルギーを地域として掘り起こしていくことができます。市の別のエリアにも広めていきたい。
・私達の園芸福祉活動は植物に接することを通じて、子どもから高齢者まで地域の方々と交流を進め、住みよい地域づくりを目指すことを目的としています。しかし、高山市全体としては自然があり余る程あるが故、植物に対する恩恵や知識の薄さを感じるが多々あります。特に外来種植物に関しては写真を見ただけでは分からないものもあるので、市民の方々に少しでも浸透していくよう取り組みたいと思います。
・里山再生。
・自然環境を守っていく。

生活環境
・動物の飼育・しつけ・医療的ケアについての相談や啓発活動。地域猫活動推進のため、具体的な方法の相談・実施の補助。やむなく飼えなくなった動物の里親探し。現代社会に則した共生方法の提案。
・環境美化・ものの大切さの伝承。

景観
・古い町並の保存。屋台組との連携。
・地域の景観を保存し、良い形で残していくこと。
・景観・町並みを大切にしたい。
・景観の保全と安心して生活できるまちづくり。訪問して、安らぎを与える空間づくり。ごみ掃除、花の提供など。
・古い町並を維持するために、行政との連携を密にする取り組みが重要である。古い町並に住む住民の寛大で謙虚な対応による関係地区町内会の協力し合う体制が必要であり、その体制づくりに行政の指導を願う。
・美しいまちづくり。無駄のない生活。
・私たちは今年度から新しい取り組みとして農村景観の保全活動の推進を掲げており、丹生川町の北方・法力地区を中心とした地域を対象としています。市のバックアップを期待しています。

学校教育
・保育園・小学校等への出前講演の継続。
・合宿施設「清見里人学校」を活用した生活学習体験(学校単位)、「星のきれいなまち飛騨高山」のイメージアップにつながる活動施設「飛騨プラネタリウム」の活用。
・ふるさとの歴史・文化・自然に誇りを持つことができる子どもたちを育てるお手伝いができたいと思います。飛騨山脈、特に乗鞍岳や地元の自然の魅力を伝えていきたいです。

・建築大工の団体なので、ものづくりマイスターで申し込みのあった学校等に行き、木工工作やかんな削り体験、のこぎりによるほぞ付け体験などを実施しています。将来の飛騨匠の技・心を引き継いでもらえばいいと思います。

スポーツ

・健康で元気に暮らすため、日ごろからスポーツに親しむプログラムを提供し、生涯スポーツの普及を図る。

文化芸術

・高山市及び市民(学校を含む)の理解と協力を得て、ユネスコ活動の普及と啓発。

・あまりクローズアップされない隠れた才能を持つ若者を発掘し、紹介しています(主にアーティスト等)。スケートボード、エクストリームスポーツの教室等や音楽イベント出演者を紹介できます。

・高山祭(春・秋)で太鼓文化を披露できます。

・高山市は経済的な面だけでなく、文化・芸術などが人の心に訴え、素晴らしい面を持つまちであり、市民がいる。そのため、歴史・民俗などの研究を深め、発信し続けていきたいと考えている。

歴史文化

・文化財の保護。

・高山の人の心と知恵とロマンがいつばいの飛騨の民話を高山弁で語り継ぐことや、語りを体験するワークショップなどの取り組みを通して、故郷への愛着や誇りを強くしていけたらと思います。

・ものづくりの将来の基となるよう、学生等とのワークショップの開催。伝統的工芸に携わる方々との交流を図り、互いに技術のさらなる向上を目指す。レベルの高い作品・作家に、人はおのずと集まってくる。

・地域の活性化を図るべく伝統文化を継承していく。

・私達は、博物館や大学の化石研究者と連携して郷土の化石の研究事業を進めています。高山市には、化石の研究施設はありませんが、化石を地域が誇れる財産の一つとしてとらえ、次世代の子どもたちの夢を育てる活動を今後も続けていきます。

地域福祉

・市内の福祉施設、在宅の要介護者および独居老人・障がい児等からの散髪依頼は、時の流れとともに増加し、その要望に応じきれない状態となっています。私たちは、社会の一員として、身近な奉仕活動に参加し、支えあう高齢化社会を目指していかなければなりません。

・福祉関係団体(福祉関係団体等連絡協議会の約150団体等)と連携し、きめの細かいまちづくりを実施する。専門性を活かした質の高い地域福祉活動や誰もが安心して住めるまちづくりを推進する。

児童福祉

・健全な家庭から、健全な子どもが育つと考え、親子で楽しめるイベントに参加したり、親が抱える悩みを少しでも和らげるようなイベントを開催したい。

・子どもたちに地域に関する本や話を紹介する。

・子どもたちへの地域・自然・くらし・環境などの啓発。
・本町3丁目あたりで、乳幼児の相談、おっぱい相談、子どもの入浴、母親の入浴、ランチ、授乳等母親にとって安心して過ごせる空間を作れたらいいと思っています。
・高山市の次代を担う青少年の健全育成を、行政はもとより、各種構成団体や市民の協力を得ながら、堅実に進めていきたいと思っています。
・子どもを中心として、ものづくりをしながら地域と触れ合う活動。
・ひとり親家庭の親や子どもへの支援を行う。併せて、理解を求めるために地域に情報発信する。行政に意見を伝え、ひとり親家庭の親や子どもたちの生活安定を図る。
・母親たちとの子育てネットワーク。
・保育園・小中学校の活動支援等、協力できることがあれば行いたいと思います。
・周知活動を通じて若年層への語りかけ。
・子育てが楽しいと思えるような仲間づくり。母親だけに子育てを過剰に任せてしまわず、家族ぐるみの子育てができるような働きかけ。
・岐阜木育の推進。高山市内の木工企業、木工作家と連携して飛騨産の木のおもちゃを開発し、子育てに活かし、森林保全につなげていきたい。飛騨のわらべうたをツールとした、多世代の交流の場、地域のつながり作り。

高齢者福祉
・シルバー人材センターの働き方改革。シルバー世代の飛躍に関すること。肯定的な考えと限りない可能性につながるようシルバーと若者間の交流。
・老人が安全に暮らせるまちづくり(地域の声掛け、緊急時対応、雪おろしなど)。
・高齢者が安心して生きがいを持って暮らすことができるよう、低家賃の集合住宅づくり。障がい者や認知症の方も、生涯過ごすことができるように介護サービスを充実させる。
・全市民が一定の年齢(65歳)になると、老人クラブ・シニアクラブ(呼び方は何でもいいが)に入会し、地域への奉仕活動に参加するようにする。
・高齢者が十分な医療介護が受け続けられ、安心して老後を過ごせるようにするための勉強会等に参加させていただきます。

障がい者福祉
・医療的・機能的側面の改善ではなく、障がいがあっても、地域で楽しく、生きがいを持ち、暮らせるためのリハビリに関する提案。
・障がいのある仲間がいる地域の中での居場所づくり(例として、余暇の支援。日中活動として障がい福祉サービス事業。生活の場として短期入所事業所など)。
・就労の場(アルバイト)の提供等。障がい児・者の就労支援団体に対する共済金支援。
・高山市に居住している障がいを持たれた方々に対する支援の継続。
・私たちは障がい者施設を運営していますが、障がい者はなかなか外に出られない。若い方から年配の方まで、社会の中で堂々と生きていくことができるような支援をしていきたい。また、社会との関わりを持ち、明るく生活できる高山市になるよう努めたい。

保健
・行政とともに、市民の健康増進に役立つような取り組み。

・市民に対してリハビリテーションの理解を広める活動(マッサージ・筋トレなどの狭い範囲での機能訓練のイメージが強いため)。
・市民の健康増進や予防に関する取り組み。
・CKD(慢性腎不全)予防啓発活動をしています。
・自己肯定感がなければ、悩みを打ち明けることすらできません。絵を描くことを通じて、自分を自由に表現し、お互いを認め合うことで今の自分を肯定する。解決に向けて、自ら動き始めることができる。そのような機会の創出のために、「臨床美術」というセッションを各地域に出張して行っている。臨床美術士は高山に2名しかいないため、活動には限りがあるが、活動を続けることで、1人でも2人でも前向きになっていただければと思う。

土地利用
・高山別院の駐車場は市の観光に貢献している。これからも観光の一翼を担うため協力していきたい。

道路
・中部縦貫自動車道の高山インターチェンジの完成に伴い、何か施策ができないか思索中です。
・せせらぎ街道から高山へ入る来訪者の通行量調査について、機械の取り付けをしてもらえば、データ等の収集の協力をしたい。

住宅公園
・空き家対策等、市内施設に関連したことなど。
・今後増加する空き家の問題について、行政を含めて何か良い方策がとれないか考える。
・解体工事にかかわる行政の取り組みへの協力及び連携。
・中古住宅の活用方法の実例。

防災
・安心して暮らせるまちづくり(防災ブザー・消火器・自治消防団など)。
・災害時における廃棄物処理(保管等)に関する態勢、仕組みづくりの協力・提言等。
・災害時に備えた情報の共有化を図る。
・災害時に備えた準備、心構えの具体的提案、啓発。
・安心安全なまちづくりのため、地域とともに防災面で危険な場所を点検し、改善できるよう市と協議・提案を行う。
・4年前の高山(江名子、石浦、せせらぎ街道)の災害時に出勤して、町内会、市、県に状況を報告しました。これからも地域を守っていきます。

安全
・主に若者を対象とした地域の防犯活動。

協働
・町内会の活動を途切れることなく、粛々と進めること(地域が機能していることが、人(子ども)を育てる。安心なまちづくりのベースである)。

・市役所と市民のつなぎ役として活動していきたい。他団体との交流を期待します。
・地域の絆を深め、お互いに助け合いながら、生活できる地域を維持したい。
・まずは、市民の「やりたい」「やってみたい」の声を拾い、実現に向けて市民と一緒に取り組む。
・老人会の見直し、合併後の社会づくり、自らが進んで参加できる環境の整備など、今後一考を要すると思います。関係団体と交流する機会を作ることが大切だと思います。
・住む人が住みやすいまちづくりを推進していく。
・人口減少が現実となってくる中、町内会の合併により地域を守っていく必要がある。

交流
・多くの若者が家と職場の往復だけで、友達との会話は SNS。スマホ一つあれば買い物もできるし、友達と気軽に連絡もとれる時代ですが、そのような中、勤労青少年ホームの講座を受講したり、クラブ活動をしている若者はとても貴重な存在です。外へ出ることで人と接し、新たな出会いが生まれます。今後もこの活動を続けて行くことが大切だと考えます。

その他
・現在の活動を継続し、少しでも地域社会に貢献し続けたいと思います。
・伝統の姿が美しく楽しいまち。そして、多くの人達が訪れるまち。高山市全域が魅力あることが良いと思う。そこに人々が住もうとする夢と希望を持ち、創っていくことを、まちづくり協議会と町内会、そして行政の支援で！！
・外出することができない人たちの所へ出向いて活動する。
・市の理想像が明確で、多くの住民が賛成するのであれば、住民が望む組織になります。
・地場産の工芸品、農産物のPRを通じて、地場産業の育成、持続可能な飛騨地域の形成に貢献する。
・支所地域の活性化。地域の魅力の発掘。地域資源の活用。弱みを、強みや力に変化。
・つい最近、中部大学 ESD シンポジウムの案内が届きました。すでに予定が入っていたため、興味がありましたが参加できませんでした。市が設立された「飛騨高山大学連携センター」との連携を深め、会員のスキルアップと会活動の充実を図りたいと思います。

3 その他自由記述

問1 1 その他、ご意見、ご提案などがありましたら、ご自由にご記入ください。

観光
・外国人観光客が参加できる参加型の文化芸能体感ドームを整備してほしい。個人団体では経費が負担できない。町中に近い場所が望ましい。
・民泊施設に地域ルールを制定したらどうか。
・現在の高山市のまちを歩いていて特に感じることは、観光化したまちの姿に心寂しくなる思いです。これは必ずしも望まれる形でまちづくりが成功したとは思えない気がしています。その途中経過とみれば仕方ありませんが、本来のこの都市の持つすごさ、素晴らしさを、まち全体で話し合い、本当のグローバル化したまちづくりに参加したいと思います。ただ古いものの中に新しいものが混ぜ込まれた、そのような感じがします。

商業
・高山市は、観光と木工（地場産業）には熱心に取り組むが、個人商店や商店街への取り組みが弱いのではないか。
・東海北陸自動車道の4車線化に伴い、人・物流の増加が予想されるため、道の駅の早期整備を切望します。

工業
・高山工業高校で大工志望の生徒がいますが、ハウスメーカーの仕事が多く、伝統建築の仕事があまりないため、弟子をとり、教えていく建築事業者がいません。高山市の伝統建築の入札などは、ゼネコンに一括で受注させるのではなく、建築部分のランクを下げて、もっと仕事が市内の事業者に戻るようにしていただきたい。将来多くの飛騨の匠が育つと思います。

労働
・福祉の仕事に若者が積極的に就きたくなるように、福祉従事者への所得保障をしてほしい。
・観光施設やホテルなどが次々と建設されたが、それに伴い、人手不足は深刻になってきていると思う。高山市は人口が少なく、若者は外へ出てしまう中、少ない働き手を奪い合っている。私たち介護関係も、どこの施設でも人が足りない。このままではサービスをやめなければならないという話が多い。過重労働も生まれている。行政は、もっと市民生活の方に目を向けてほしい。
・若い人に高山市へ戻ってきてほしい。また、30～60代の雇用の促進もしてほしい。
・若者の定着の方策として、市内の公的機関等の採用の際、市内出身者採用枠を設けるなど、積極的に進めてはどうでしょうか？銀行等に働きかけてみては。
・若者人材バンク等があると良い。高山市内に住んでいるが仕事が見つからない若者のために、シルバー人材センターのような人材バンクがあっても良いのではないかと思います。農業をやってみたりとか高山市に住んでみたいという都会の若者が宿泊できる施設も用意して高山市を活性化してほしい。

林業
・進出するホテル業界に地元産の木材を使うPRを。

地球環境
・高山市の目玉は国際観光都市ですが、玄関口の高山駅一つを例に考えても、人文的なものばかりが前面に出ていて、文化の基盤であり、観光資源の最大の目玉である自然については、全く忘れ去られている。高山駅の東口(乗鞍らしさゼロ)、西口(白山らしさゼロ)、東西を結ぶ通路のどこにも自然・緑の植生から動物相のツメのかけらも見られません。城山全域をエコ・ミュージアムにするくらいの日本最先端に行く気構えがほしい。
・高山独自の植樹祭・木育祭。
・乗鞍岳等では、環境問題が優先されたが故に、イノシシ・カモシカ・サル・クマなどの動物がどんどん増え、人間の生活が脅かされ、自然環境にも悪い影響を及ぼしている。政府の地方創生も名ばかりで、何も前へ進んでいない状態と思われる。乗鞍のマイカー規制を解除し、たくさんの人に来てもらい、環境を守っていくように(今はマナーの悪い人はいません)。
・高山市を特色のある地域ごとに色分けすることが大切。色は1つにする必要はない。その中で、情報発信力のあるものと経済的な効果の高いものから取り組んでいくのが得策だと考えます。点と点を結んで、面にしていくことができるかどうか。私たちの活動の場合は、福地温泉の小さな集落で自然エネルギー自給率を高めることができるか取り組んでいますので、応援よろしくお願いします。
・高山市には植物園がありません。大自然の恩恵にあずかり身近に植物に触れることはできますが、高山らしい山野草園などを飛騨の里に作っていただき、ボランティアを集い、園の運営に当たり、子どもから高齢者までが手入れや植育などに協力し合って「山野草植物園なら高山」と言われるようになったらと希望します。飛騨の里の素晴らしさにプラスαをすることで市民が集って楽しみ、また観光客の方々も来てもらえる構想を企画してほしいと思います。
・持続可能な再生エネルギーの町を目指す努力をする事。原発は期限をもって廃止する事を宣言する市である事。
・当法人の活動(環境保全)に参加してほしい(市役所の各課の壁を越えて)。
生活環境
・高齢化・孤立化の進む社会において、動物との暮らしは心のよりどころとして欠かせなくなっています。ただ、飼育スキル不足や過剰供給、販売倫理の欠如、幼齢犬猫等の販売による弊害など、実際の家庭では人も動物も不幸な状況にあるものが少なくありません。立ち遅れた法整備と倫理観の確立、飼育者のスキルアップは現代の必須課題と言えます。また、家族や地域との溝が生まれると動物に依存する傾向があり、批判されればなおさら孤立を深め、守り通すつもりが多頭飼いによる崩壊を招く悪循環となっています。大切な家族として動物と暮らした高齢者が、安心できる引受先もないまま、泣く泣く動物と別れる、ケアできず家が荒れてしまう、そんな悲しい事例が後を絶ちません。まずは、精神福祉の観点から行政が相談窓口を設置し、高齢になっても孤立しない安心できる魅力的なまちをすることで、若者定住促進に結び付けば、活力と潤いのある高山市が実現できると信じています。
・現在、保健所に協力していただき、活動を行っていますが、動物愛護に対して市も予算を組んでもらいたいです。「動物にやさしい町は、人にもやさしい」と心から思っています。自分や世の中の子どもたちが安心して暮らせる世の中となるよう、考えていただきたいです。
・火葬場やゴミ処理施設の建設を早く具体的に進めて欲しいです。

景観
・高山駅自由通路の木の壁がよくない！木に見えない。高山駅は人気がないデザイン。
・古い町並の店舗形態にルールを決めたらどうか(例として、金沢の古い町並)。
・景観保全に関しては、地元の活性化が不可欠です。若年層の他地域への流出、住民の高齢化、空き家などの地域にも共通する問題があります。私達の活動の輪の中に市の関係各課の職員もぜひ参加してください。
学校教育
・若者が故郷を離れることなく、地元で勉学に励むことができるように、大学の学部の新設を願っています。国が大学に対して、学部新設の補助金を予算化して支援しています。
文化芸術
・高山市の美術館を作る。その美術館を核として、現存する市内の各美術館・博物館等とネットワークを作り、情報の発信・連携した企画を立てる。教育委員会と連携して、独自性のある教育(例えば、かつての版画教育)をすることで、地元の若い人に早くから「ものづくり」に関心を持っていただき、将来も「ものづくり」ができるまちにする。
歴史文化
・若者等活動拠点施設整備事業(旧村田邸)について、地元としては、憩い・癒しの場として、また、鳩峯車組を中心とした祭、地域文化の場として生かしていただければ幸いです。鳩峯車組を中心に下二之町全体として、現在活用に向けて取り組んでいます。なにとぞ良い形となるよう、頑張っていく所存です。
児童福祉
・市内の自然豊かな里山等で子どもたちが自由に遊び、学べるような施設(場所)があればいいと思います。
・ふれあい児童館の近くに駐車場を作ってほしい。児童館の中に自販機がほしい。
・現在子育て支援を行っている様々な教室の方々(子育て中の母親)が、どんなことを思い求めているのかのアンケートをしています。親の声が少しでも未来の高山市に反映されていければ良いと思っています。
高齢者福祉
・独居の高齢者に対する冬の雪かきや屋根の雪下ろしへの支援体制を確立してもらいたい。
・高齢者が日本一快適に生活できる地域を目指す。
・年を重ねた現在、知恵袋としての働きはできるが、体力では無理。元気な高齢者の利用も良いのでは。

障がい者福祉
・障がいを持った人に優しいまちづくりをお願いしたい。今後自分だけで透析に通院できない患者（車いす等）が多くなっていくことが懸念されます。お金に余裕のある一部の人は医療タクシーを使っていますが、ほとんどの人が家族の送り迎えで、家族の負担が大きくなっていきます。このことに対する対応策が必要になると思います。
医療
・個人情報の保持が大切なことは十分承知していますが、例えば新たに喉摘者となった者に対して、情報（発声訓練の機会や環境）が伝わるような取り組みを医療関係者や行政が一体となって行っていただけるとありがたいです。
土地利用
・高山公設市場等の再開発。
・古民家や施設を利用する市民のための駐車場の整備。
・支所地域の 10 年後、20 年後は、過疎化・高齢化が急激に進展すると思われる。地域の用水や施設・農地の維持が困難になる。特に小規模な集落の存続については、早急な課題の洗い出し・対応策が求められる。集落再編やコンパクトシティなどの有効性の検討や、その他新たな政策が必要では。
・高山市の中心地域や、各地域の特性を配慮したサイン計画を導入してはどうか。
・高山市民文化会館の利用者の特徴として、ホール以外の利用者の大部分が高齢者団体であり、活動拠点となっていることが分かってきました。福祉センターなどでは、そうした団体をすべて受け入れるキャパはありません。したがって、文化会館などの生涯学習施設が積極的に受け入れることが、今後ますます求められると考えられます。文化会館などを利用する元気な高齢者が増加することは、単に生涯学習の充実にとどまらず、福祉対策・医療対策にも大きく貢献できるものと考えられます。一方で、いくつかの課題があります。1 点目として、福祉・生涯学習・都市計画・コンベンションなどの視点から、駅西地域を 30 年後、50 年後どうしていくのか、再度検討する必要があります。現状は駅周辺整備事業で進められているため、福祉・生涯学習などの拠点としての位置づけは薄いと言わざるを得ません。2 点目として、この地域は慢性的な駐車場不足が将来にわたり予測できます。今後駐車場を整備しないのであれば、高齢者が気軽にこの地域に立ち寄れる足の確保（のらマイカーの増便等）が必須条件となります。3 点目として、現総合計画で市民文化会館の建設が頭出ししてありますが、福祉センターも手狭となっており、改築の時期にきています。そうしたことから、この地域に必要とされる複数の機能を集約し、効率的な活用を考え、利用者にとって利便性のある、セクト主義にとられない新しい発想での施設整備を望みます。4 点目として、上記については、駅西地区限定の事ではなく、市域全体にもつながることであり、特に施設利用については、高齢者の施設利用促進も踏まえた条例規則の見直しも検討願います。
・駅西地区には図書館と映画館を取り入れた公共施設を作ってほしい。
・国府のショッピングセンターの撤退が公表され、住む場としての地域の魅力の喪失を危惧しています。高齢化が進む中で、医療機関とワンストップで買い物ができる場合は、重要性を増しています。都市計画の中でも検討していただきたいと願っています。

・小規模の空き地があれば、商業施設ではなく、子どもが自由にボールで遊んだり、自転車の練習をしたり、親子で散歩できるような空間にしてほしいです。せめて、コンビニが新しくできる場合にその近くに小さな公園や広場も一緒に作るといった偏りのないまちづくりをしてもらえると高山の良さが引き立ってくるように思います。福祉も観光も環境も商業も伝統も、どれをとってもバランスよく成り立っている高山市はすごいです。そのすべてを担っていくのは、高山で健全に育った子どもたちだと思っています。

道路

・地方に住む人と都市に住む人が生活環境を平等化・公平化し、地方創生を図る第一段階として、高速道路の無料化を断行すべき。

公共交通

・交通アクセスの充実。

・高齢者の運転免許返納は大事なことだと思うが、返納した後、病院へ行ったり、買い物に出たりするのに交通機関がもう少し便利になるとありがたいと思います。

住宅公園

・旧パークボウル跡地に高山城を造って、春の桜と秋の紅葉が楽しめるような公園になればステキな名所になると思います。

・西ウレ峠頂上を公園化(今のままで十分)し、少し立ち寄って標高差を感じる場所としてアピールしてほしいと思っています。峠はどこにでもあります、分水嶺は数少ないです。これが清見町の西ウレ峠にあることをもっとアピールしたいので、公園の看板と、分水嶺の位置を示す看板がほしいです。県道の施設に看板が取り付けられるよう切望します。

・高山市営赤保木団地の平屋部分をすべて取り壊して5階建てとし、エレベーターを設置し、バスロータリーを整備して出入り口前で乗降できるようにし、高齢者が快適に生活できる空間にしてほしい(江名子団地も赤保木に集約する)。

防災

・自然災害に対する対策(大雨、大雪、森林・農地荒廃の影響による倒木・出水・土砂流出・獣害等)。

・市の財産である建物等が、火災、地震等の災害から耐えうる態勢を強めていくこと。

協働

・貴重なまちづくり支援金が将来いつまで交付いただけるか未定の中、地域活性化のための受け皿としてのまちづくり協議会の体力増強(正味財産の確保)が必要です。

・まちづくり協議会の活動に議会の姿が見えない。そのような中で、市長は、「法人化にすべき」、「将来は自主運営にすべき」と提言しているが、真意が分からない。まちづくり協議会はボランティア団体である。

・まちづくり協議会をもっと充実・活発化させれば、町内会は必要ない(支所地域が対象)。市民全体を対象としたまち協にもっと力を入れるべき。任意加入の町内会では、なんの力も権限もなく、今後の活動の発展性は考えにくい。リーダー・役員の数も減らすことができ、より良いと考える。

・町内会役員の高齢化と、なり手不足の問題。
・人々のふれあいを大切にしまちづくりをしたい。隣・近所の人々とのふれあいの深いまちづくり。仲良しまちづくり。福祉がつながるまちづくり。
・人口減少に伴う地域との連携(第二住居)。

交流
・人的交流(海外も含めて)を盛んにする。

行財政運営
・市民が互いを信じ、助け合って暮らせるまちづくりに、行政としてさらに力強くまい進してもらいたいと思います。
・子育てを含む教育に多くの予算を配分することが、何よりも未来を明るくする大切なことだと思います。
・高山市は将来のため、過去の伝統文化の保存と文化芸術の振興を大切にしてほしい。また、これからの人口減少と少子化・高齢化の対策が課題ですが、これは国政の問題でもあります。高山市政としては、「よりよい社会・住みやすい環境・生きがいある人生」を市民にとって大きな課題として、各分野の専門家・有識者や活動団体等、経験豊富な方々と見直しを進めることが大切です。
・市議会議員の定数削減。24 人を 20～18 人にしてほしい。
・職員が仕事(イベントや行事など)に追われないような組織体制を整えてほしい。
・開かれた行政に努めて下さい。
・施設は必要ない！

その他
・豊かでしなやかな心を持った子どもたちが、自分で将来の展望を切り開いていけるような活動をしていこうと考えていますが、資金面・人材面ででのやりくりが大変です。活動のための場所、駐車場の確保(場所・時間)がネックです。こういう状況を話し合い、解決の場を持ちたい。他の団体との連携も必要になると思います。行政の温かい支援を期待します。
・今取り組んでいることに価値を発見。静けさ、温かさ、ゆとり、思いやり、輝かしい文化を継続する。少子化・高齢化は時の流れであり、その状況を否定的にとらえず、肯定的にとらえていくと多くの価値が見つかるはずです。高齢者を尊び、支える文化の創意工夫。
・国島市長の市政に期待しています！！
・市へ相談すると、町内会・保存会単位での対応はしていただけますが、広域となると難しい。広域的な話やまちづくり協議会エリアを越えた話は、市議の力が必要だと思います。また、町中の事を考えてくださる市議がいない。そのほか、市担当者から市議に情報が知らされていないケースがあります。もう少し市役所と市議の情報を共有することが必要ではないでしょうか。また、市街地の問題(人口減・高齢化・少子化・交通・防災・都市計画など)を地域で話し合うことが必要かと思っています。
・未来が見えているのだから、やることは必然的に決まっていると思います。市へのすべての要望はかなえられないと思うので、どこを我慢してもらうのか。その代わりにどのような市にしていくなかを住民に理解してもらってください。

・市民の生活向上や、より良いまちづくりを目指すための今回のようなアンケートは、とてもありがたいと思います。市民の方々のいろいろな意見を聞きながら、自分たちの活動に生かしていけたらと思います。
・市長選を控えた時期に、市予算を使って、このような調査をするのはどうなのかと思います。市長が言う平和とは、戦争のないこと、核のないことでしょうか。でしたら、高山はすでに平和。世界で起こっている戦いの平和を願うのかと思いますが、当事者たちは必要と考えてしているわけです。平和だけを求めると、弱者は黙っているという世界になると思います。
・前半のアンケート項目（選択肢内容）がとても難しい表現で理解しづらいです。
・このアンケートの集計結果をできれば公開してほしいです。
・「民」で出来ることは連携し、官民で考え推進できたらとてもよい町になっていくと思います。
・観光のみに頼らず、他分野の発展、開発に今まで以上に努力して魅力あるまちにしていきたいと願います。例えばエネルギー問題、住宅問題、人口問題など、高山ならではの独自の解決策をみんなで考え出せるような場を作っていきたい。
・伝統や古い町並以外の強みを探し、目を向けてほしいです。大半の若者は、それらと関係のない生活をしています。将来を担う若者が興味のある環境を残さないと、特に意欲のある若者ほど高山市から離れてしまいます。
・「郷土愛」を育む教育・活動を行政と地域が協働で行い、多くの人が地元に戻ってくるように。また、新たな定住者を迎えられる地域であってほしい。
・人・物・景色（風景）を文化として発見すること。地域の「宝物」として、地域の個性の発信。